

# チセヌプリスキージャンプ場存続活動

【蘭越】国際的スキージャンプ、ニセコの発展の一翼を担い、今季限りで休止が検討されている町営のチセヌプリスキージャンプ場。存続を求める署名活動も起きており、活動の中心となって奔走するプロスキーガイドの市村剛志さん(49)＝札幌市＝に、同スキージャンプ場の魅力や存続への思いなどを聞いた。(及川靖)

## プロスキーガイド 市村さんに聞く



「チセヌプリスキージャンプ場は自己責任の大切さを学ぶ場」と話す市村さん

# 自己責任学ぶ場必要

自分で考え、自己責任で行動することを学ぶ場として、このスキージャンプ場は非常に有意義です」

「自己責任には危険も伴いますが」

「スキー界には、自然の中で子供たちの感性を育てる『雪育』という考えがある。さまざまな体験を通して、危険に対する感覚も磨かれていくと思う」

「ただ、施設は老朽化し、維持には多額の金がかかります」

「町の財政が苦しいのは分かるが、この環境を守ることも大切。私たちが声を上げることで、町の方針が変わったり、企業が買収に動いてくれることなどを期待しています」

「なぜ署名を行っているのですか」

「ニュージューランドで20年、チセヌプリで16年、プロのスキーガイドとして活動してきて、チセヌプリスキージャンプ場とスキーヤーたちのすばらしさを実感して、この環境を守らなければと感じたからです」

「具体的には？」

「このスキージャンプ場には自然が残され、パトロール員も常駐していないので、自己責任で滑らなければなりません。そのためスキーヤーは雪の状態や危険な場所などの情報を互いに交換しながら、スキーを楽しんできました」



チセヌプリスキージャンプ場 チセヌプリ(標高1134m)の南斜面に1967年にオープンした町営スキージャンプ場で、圧雪コーリフトのワイヤ張り替えなど、2013年度から3

林に囲まれた自然のゲレンデは愛好者に人気があるが、利用者の減少や施設の老朽化が進んでいる。町は新設することも検討されている。

自然豊かなチセヌプリスキージャンプ場

